

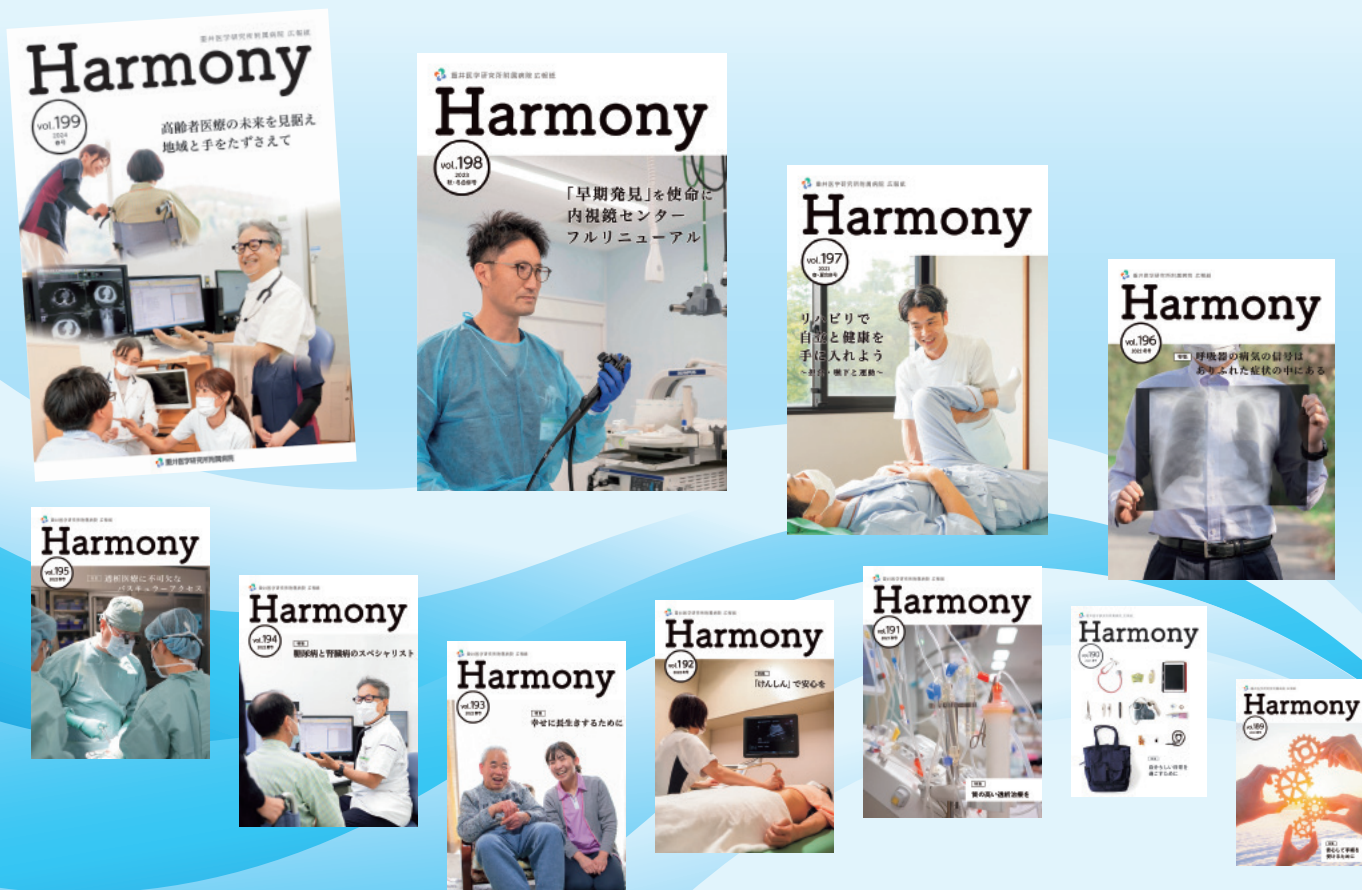
Harmony

vol.200
2024
夏号

おかげさまで

200号





Harmony200号に寄せて

広報誌Harmonyが記念すべき節目を迎えました。

2001年9月に発刊した広報誌「はあもにい」は、「Harmony」へとその名を変えながら23年にわたって発行を続け、当院の役割や取り組みを紹介してまいりました。患者さんや地域、連携先の皆さまに支えられ、発行を続けることができましたことを感謝いたします。その歴史は当院と地域との関わり、コミュニケーションそのものであり、発行を通じて自身を顧みるものでもありました。

現在、少子高齢化に加えグローバルな環境変化も相まって、医療を取り巻く環境はかつてない変化を続けており、今後も加速していくものと思われまます。それに対応するために、2024年4月当院が属する創和会は、より深く地域医療に貢献する使命を持つ「社会医療法人」に移行いたしました。その責任を受け止め、地域に必要とされる病院であり続けるよう、恐れずに「アップデート（最新化）」を続けてまいります。

今後も地域の皆さまとのコミュニケーションの一環として、本誌を通じて当院の「新しい姿」を伝えてまいります。引き続きご高覧くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。



院長 真鍋康二

2001年 はあもにい第1号発刊

広報誌Harmonyの前身である「はあもにい重井医学研究所附属病院版」は、皆さまに当院の診療内容を知っていただくことを目的に、創刊されました。創刊当時はインターネットも現在ほど普及しておらず、当院ホームページは、開設してはいたもののまだこれから、という状態でした。そこで、当院からの情報発信として広報誌はあもにいを発行することにしました。

発行形態は月刊とし、紙面の体裁は、鞆に入れても邪魔にならないよう、A4サイズの三つ折りとしました。表面は当院の診療内容や部署の紹介、そして当院のニュースなどを掲載し、裏面には診察予定表、公開講座や栄養教室の案内などを配置しました。この構成は165号まで続きました。



2015年 166号からA4判に

大きな転機を迎えたのは2015年6月、新入院病棟の完成でした。これを機に、より充実した情報を発信するために全面的に改訂することとしロゴもひらがなから英語表記へと刷新しました。紙面はA4サイズの8ページとし、写真やイラストを多用し、親しみやすいものへと改めました。特に表紙は特集記事を的確に反映するよう毎号趣向を凝らしています。

例えば、リニューアル号である166号の表紙は、複数の職員が跳躍しています。これは地域の医療を担って大きく飛躍していくという当院の決意を表しています。毎号の特集内容は当院の診療内容を紹介することに特化し、地域や医療関係者の皆さまに読んでいただくことを想定しながら、わかりやすい表現を心掛け、編集しています。



私たちは、さらに皆さまに関心を持っていただける広報誌を目指し、紙面作りのために2023年から読者アンケートをお願いしています。あなたのご意見、ご感想などを今後の企画に活かしていきたいと思っています。是非ご協力いただき、一緒に当院、そしてHarmonyを育てていただければ幸いです。



アンケートは
こちらから

特集 へき地支援・地域医療への貢献



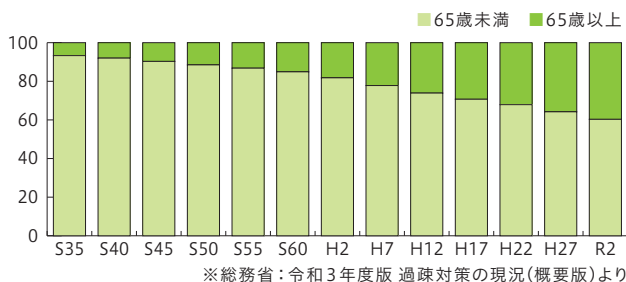
地域医療の現状

日本国内の過疎地域は市町村数では半数近く、面積では国土の約6割を占めています。また過疎地域における65歳以上の高齢者は39.7%を占め、大幅に上昇しています。

一方無医地区の90%以上が過疎地域に存在しており、岡山県の調査によれば県内でも21地区が無医地区となっています。

岡山市や倉敷市、津山市、早島町を除く県下市町村において、人口10万人当たりの医師数が全国平均を下回っている現状があります。無医地区、そして無医地区に準じる地区でどのように持続可能な医療を提供するか、大きな課題となっています。

過疎地域の年齢階層別人口構成比の推移



※無医地区とは、医療機関のない地域で、当該地区の中心的な場所を起点として、概ね半径4kmの区域内に50人以上が居住している地域であって、かつ容易に医療機関を利用することができない地区。

社会医療法人への移行

当院を運営する創和会は2024年4月に「社会医療法人」へ移行しました。これまで取り組んできたへき地医療への人的貢献が認められ、認定を受けました。私たちの地域医療への取り組みをご紹介します。

社会医療法人とは

救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児療育など
[公益性の高い医療=政策医療] は、これまで国・都道府県・市町村の自治体病院などが中心に行ってきましたが、近年高コスト体質などの影響で赤字が拡大することが多く、地域社会の医療基盤を維持することが困難となってきました。そこで医療提供体制に関し、自治体病院などの機能を代替する目的で、国により新たに位置づけられたのが「社会医療法人」です。

へき地診療所への 医師派遣

岡山県内には49カ所のへき地診療所が設置されています。これらのへき地診療所に対して、へき地医療拠点病院やへき地医療支援病院から医師派遣などの支援が行われており、当院からは佐伯北診療所、新見クリニックに医師を派遣しています。

岡山県へき地診療所MAP



生活を支える 佐伯北診療所

病院名：赤磐市国民健康保険佐伯北診療所
所在地：岡山県赤磐市塩木14
診療科：内科、耳鼻咽喉科

赤磐市は北部から東部にかけて丘陵地となっており、北部の山間、豊かな自然に囲まれた国道484号線沿い、高田川の側に診療所は位置しています。

1974年、現在の所在地に開設以来、長期に渡り赤磐市北部での地域医療を支え、現在は、赤磐医師会病院、岡山済生会総合病院などが医師を派遣し、平日5日の診療を続けています。当院からは毎週木曜日に医師を派遣しています。



診療所の皆さんと当院の山本医師（中央）

他の過疎地域と同じく、路線バスの本数が減便されるなど地域交通に課題を抱えており、自家用車で来れない患者さんはタクシーやコミュニティバスを利用しています。取材日に来院されていた91歳の女性患者さんも「免許は返納しました。圧迫骨折で2カ月に1回薬をもらいにコミュニティバスを利用している」とお話しくださいました。



取材日にコミュニティバスで来院された患者さん

赤磐市北部のかかりつけ医として



神本看護師長

診療所では新型コロナウイルス感染症への対応や、糖尿病、高血圧などの生活習慣病の診療、痛みや不眠などの日常生活の中での困り事など、多くの症状を抱える患者さんを診察しています。

診療所の神本看護師長は「高齢者はなかなか病院に来られず、重症化した大きな病気が見つかることも多いんです」と課題を口にされています。

「この規模の診療所としては充実した検査機器を備えているので検診に力を入れて、早期発見につながるよう取り組みたいと思います」
(神本看護師長)

当院内科部長 山本直樹 message

診療に行かせていただくようになり1年、県北部にある穏やかな診療所での診療は、来てくださる患者さんと温かいスタッフの皆さんに囲まれ、診させていただいているこちらも穏やかな気持ちになります。そこに住んでおられる患者さんたちの生活を支えるための大切な診療であり、赤磐市北部の医療を支える一員であることの責任を感じています。患者さんたちや診療所に関わる皆さんの笑顔につながるような診療を目指し、頑張っていきます。



新見圏域の透析医療を支える 新見クリニック

病院名：医療法人社団 泉樹会 新見クリニック

所在地：岡山県新見市西方450

診療科：透析内科

岡山県新見市は、県北の山々と高梁川に囲まれた、人口約2万人程度の町です。1990年創立、新見駅のすぐ近く、市内唯一の透析専門医療機関である新見クリニックには、当院やしげい病院、その他の医療機関が医師を派遣し支援しています。現在約30名の透析スタッフが在籍し、約80名の透析患者さんが透析を受けています。



多様な専門性を生かした診療

長年新見クリニックに従事する小川主任看護師は「患者さんの中には、日替わりで医師が変わる環境で同じ先生に診てもらえない不安を口にする方もいらっしゃいますが、そこは院内常駐スタッフがカバーしています。医師には、それぞれの患者さんの経過をしっかりお伝えし、また患者さんには医師の指示が誤解なく伝わるよう、常にフォローするよう心掛けています」と医師と患者さんとの橋渡し役を担っておられます。むしろ「透析専門クリニックですが、様々な専門性を有した医師にお越しいただくことで、多様な視点で診察いただけるのはとてもありがたいです。例えば本日勤務の丸川先生（呼吸器専門）には、先日レントゲンを撮った患者さんについて意見をお聞きする予定です」と、多くの医師が支援する利点を感じていらっしゃいます。



左：小川主任看護師 右：当院の丸川医師



地元密着ならではの、あふれる笑顔

「患者さんは高齢者の方ばかりですが、いつもとても元気で、ご自身で作った野菜を届けてくれるんです。トマトとかとっても美味しいんですが、患者さんにはカリウムの値が上がるから食べ過ぎないで、と注意しています(笑)」(小川主任看護師)

医師と、そして患者さんと、地元密着ならではの緊密なコミュニケーションが、笑顔あふれる地域の透析医療を支えています。

当院内科部長 丸川将臣 message

2021年夏、急病で倒れられた新見クリニック前院長の故仙田先生の志を思い、またこれまで40年携わってきた医療者として当然の社会貢献として、診察させていただきます。

地元患者さんの療養のご苦勞に触れ、そして患者さんを支える献身的なスタッフに接し、わずかな診療回数の中でもお役に立てるよう毎回心を新たに新見に向かっております。



広域での透析シャント治療～地域の透析医療を守る～

岡山県北部地域において透析施設は少なく、バス
キュラーアクセスについての定期検査、治療を行う
ことができる施設は限られています。透析患者さん
は定期的に岡山県南部の専門医療機関を受診する
必要があります。

櫻間医師は、派遣当初よりかかりつけ医で検査と
診断ができれば、治療の時だけ専門医療機関を受
診すればよく、まずは現場で診断できるようにメ
ディカルスタッフの育成が急務と考えました。その
ため2022年12月より毎月1回、新見クリニックへ指
導に赴いています。

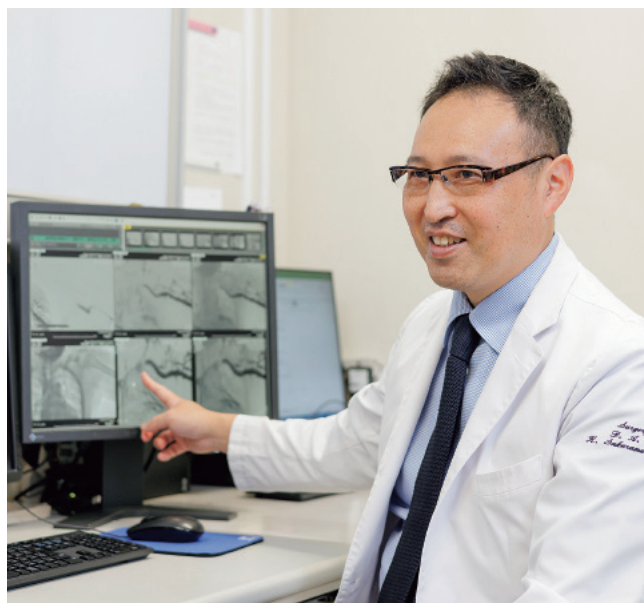
当院のダイアライシスアクセス専門外来で用いて
いるツールや診断方法を活用し、スタッフには手診
察でどれくらいの上腕動脈平均血流量があるか、ト
ラブルに巻き込まれる可能性のあるバスキュラーア
クセスはどのようなものなのか、治療介入の必要性
の有無、など理学的な診断をマンツーマンで直伝し
ています。また、エコー所見で内腔がどれくらいにな
り、上腕動脈平均血流量が一定の数値を下回った
場合には診察するというように具体的な指導を行
い、現在では3カ月ごとに定期エコー検査に加えて、
異常が生じていれば診察するようなシステムとなっ
ています。

患者さんからは「片道2時間かけて県南部の専門
医療機関を、定期受診しなくてよくなったことで負
担が減った」といった感謝の声をいただいています。

「シャントに対するスタッフの意識は確実に向上
しています」(小川主任看護師)

現地スタッフは異常の有無を自己判断できるまで
に成長し、スタッフ自身も実感を口にされています。

新見クリニックの他に岡山県北部の2つの医療機
関からも依頼があり、櫻間医師は新見クリニック同
様に人材育成支援を行っています。



当院外科部長 櫻間教文

今後、へき地拠点病院や自治体病院を支えている
医師も高齢化し、派遣元の病院も医師不足に直面す
ると考えられます。持続可能な医療提供に欠かすこ
とのできないコメディカルの人材確保や技量向上に
も貢献できるよう、引き続き取り組んでまいります。



取材にご協力いただきました

● 佐伯北診療所の皆様 ● 新見クリニックの皆様
誠にありがとうございました。

40年の歴史を刻む「公開講座」

～地域へ、医療をより身近に～

去る6月22日(土)、西ふれあいセンター(南区妹尾)にて、「公開講座2024 すこやかに生きるために その40」の本年第1回目を開催いたしました。院長真鍋による、今回の演題は『幸せに長生きで生きる「考え方」と生活習慣～寝たきりにも認知症にもならず、幸せな人生を送りましょう～』。会場では多くのお客様が熱心に聴き入り、ときにメモする姿も見られました。講演後も、健康運動指導士による「リハビリ体操」で実際に体を動かしていただきました。参加者の皆様、誠にありがとうございました。



40年の歴史

本講座は、故小坂淳夫第二代院長の発案を受け、1985年6月27日に「公開講座 すこやかに生きるために その1」の第1回が開講されました。当初から都窪医師会に協賛をいただき、回を重ね今年度で40周年を迎えることができました。

開講の目的は、医学・医療・薬剤・介護・福祉・食品栄養などの知識や新しい動向を広く地域の方々に提供し、地域の皆様の健康増進につなげることでした。当時、このような講座は岡山県内にはあまりなく、毎回多くの方にご参加いただきました。また、講演中の様子が地元テレビ局に放映されたこともありました。そして実績が評価され2005年の10月には、岡山県生涯学習大学の連携講座に登録されました。

2020年からのコロナ禍においても、万全の感染対策を施したうえで開催を続け、途絶えることなく40年。これからも公開講座を通して医学や医療の進歩に応じ、新しい情報を地域の皆様に提供して参ります。



開催情報

会場 西ふれあいセンター ふれあいホール

要予約 各回定員120人

第2回 7月24日(水)

14:00～15:15 受付開始13:30～

講師

看護部長 森安 香緒里

演題

いつまでも、自分らしく過ごすために
～認知症の特徴について～



第3回 9月4日(水)

14:00～15:15 受付開始13:30～

講師

内科部長 丸川 将臣

演題

結核と非結核性抗酸菌症 最近の話題



第4回

10月30日(水)

講師

内科部長

山本 直樹



最新情報は
HPから
ご覧ください!



各講演終了後に、当院リハビリテーション部スタッフによるリハビリ体操もご紹介いたします。

お問い合わせ先

086-282-5311 (公開講座担当)

ご存じですか？ 带状疱疹のワクチン「シングリックス®」

皮膚の表面に赤いブツブツができて帯状に広がってしまう「带状疱疹」。

日本では、80歳までに約3人に1人がかかるといわれ、また50歳以上の約2割の方が長い間痛みが残る带状疱疹神経痛となる可能性があります。

シングリックス®は2020年1月に認可された「不活化ワクチン」で、免疫力を抑制する治療を受けているなど生ワクチン(弱毒性水痘ワクチン)を接種出来ない方でも、接種可能です。50歳以上で97.2%の予防効果があり、10年後も80%を超える長期予防効果があるとされています。

当院では带状疱疹予防に用いられるワクチン、「シングリックス®」を接種可能です。接種料金[2回計44,000円(税込)]

その他予防接種については当院ホームページ「予防接種」をご覧ください。

シングリックス®について

※50歳以上の成人に1回0.5mLを2カ月間隔で2回、接種いたします。

※50歳未満の方で接種希望の場合、医師にご相談ください。

※副反応として、注射部位の痛みや腫れ、全身的な倦怠感、頭痛、筋肉痛、悪寒、発熱などがあり、弱毒性水痘ワクチンよりも副反応は多いとされています。



予防接種
ページは
こちらから



〈当院で「けんしん」をご希望の方へ〉

予告 けんしん予約はホームページから



ホームページよりけんしんの申し込みができるようになります。〈8月5日 8:30予約スタート〉

「健康診断」のみならず特定の病気にかかっているかどうかを調べる「検診」もあわせて選択が可能です。

当院で施行している健診・検診

- 特定健診
- 協会けんぽ健診
- 企業健診
- 個人健診
- 岡山市、早島町けんしん



お申し込みは
こちらから
8月5日 8:30
予約スタート

新任医師紹介

えいすけ

内科医長 中村 英祐

4月より勤務させていただいております中村英祐と申します。山口県出身ですが、高校卒業までは転勤族である父の下、関西や関東で育ち、大学進学を機に香川県に参りました。卒業後は電解質・体液管理など全身管理ができ、手技(バスキュラーアクセス関連手術)もある腎臓内科に魅力を感じ、香川大学腎臓内科に入局致しました。これまで香川県内の急性期病院で勤務し、細々とバスキュラーアクセス関連手術を行って参りましたが、近年は透析患者さんの高齢化、糖尿病・高血圧などの動脈硬化性疾患を抱える患者さんが増加したことによりバスキュラーアクセス関連手術の難易度は上昇してまいりました。

そのような中で、バスキュラーアクセス関連手術で有名な先生が集まる研究会に参加させていただく機



会があり、そこで当院、櫻間教文先生に出会いました。そして昨年より見学させていただくようになり、櫻間先生の手術手技・理論・戦略に大変感銘を受け、ここで学び少しでもバスキュラーアクセスで困っている方々の力になりたいと考え、瀬戸内海を渡りやって参りました。不器用な人間で、ガッツしか取り柄がありませんが、1人でも多くの患者さんに満足していただけるよう日々研鑽を積んでいく所存です。皆様、御指導、御鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

いよいよオープン間近 しげい腎クリニック早島の 全体像が見えてきました



昨年10月に着工したしげい腎クリニック早島の建築工事も、ついに鉄骨が組みあがり、4月中旬に組み上げが完了いたしました。建設は順調に進み、現在は屋内の配管工事や配線工事が行われており、だんだんと新クリニックへの期待も大きくなっています。



ホームページは
こちらから

重井医学研究所附属病院

採用情報 私たちと一緒に働きませんか?

現在、様々な職種で一緒に働く職員を募集しています。詳しくはホームページ「採用情報」をご覧ください。



最新の
採用情報は
こちらから

外来診察予定表

		月	火	水	木	金	土	
内科	午前	糖尿病 腎臓・肝臓	真鍋 康二 (総・肝・糖・腎) 大森 一慶 (総・糖)	大森 一慶 (総・糖・腎)	荒木 俊江 (総・糖) 渡邊 真也 (総)	休 診	十川 圭司 (総・糖)	真鍋 康二 (総・肝・糖・腎) 荒木 俊江 (総・糖) 渡邊 真也 (総)
		腎臓	福島 正樹 (腎)(紹介・初診のみ)	瀧 正史 (総・腎)	福島 正樹 (腎)		福島 正樹 (腎)	福島 正樹 (腎)
	消化器	藤本さおり (総・消)	西山 仁樹 (消)	山本 直樹 (総・消)	山本 直樹 (総・消) 岡 優子 (総・消)		岡 優子 (総・消)	
	循環器	—	近藤 直樹 (循)	—	—		—	
	呼吸器	丸川 将臣 (総・呼)	—	丸川 将臣 (総・呼)	—		—	
	—	—	—	—	—		—	
★総:総合内科 腎:腎臓 肝:肝臓 糖:糖尿病 消:消化器 循:循環器 呼:呼吸器 ★福島正樹への新規ご紹介につきましては予約が必要です								
午後	一般外来	交代医師	交代医師	交代医師	休 診	交代医師	交代医師	
	専門外来 ☎要予約	—	(糖尿病・腎臓病) 真鍋/荒木 (呼吸器内科・一般) 丸川 将臣	—		—	—	
健診・検診 ☎要予約		西山 仁樹	西山 仁樹	西山 仁樹	休 診	藤本さおり	西山 仁樹	
内視鏡検査	午前 (上部消化管) ☎要予約	岡 優子	山本 直樹	藤本さおり	休 診	西山 仁樹	岡山大学医師	
	午後 (下部消化管) ☎要予約	岡 優子	山本 直樹	山本 直樹		藤本さおり	—	
小児科	午前	虫明 亨祐 河野 美奈	虫明 亨祐 今村 昌司	河野 美奈 今村 昌司	休 診	虫明 亨祐 河野 美奈	瀧 正史 虫明 亨祐	
	午後	交代医師	交代医師	交代医師		交代医師	交代医師	
小児療育	午前 ☎要予約	今村 / 河野	今村 / 河野 / 川田	今村 / 川田	休 診	今村 / 河野	今村 / 川田	
	午後 ☎要予約	今村 昌司	今村 / 川田	今村 / 河野 / 川田		今村 昌司	今村 / 川田	
★初診の方は火・水の午前中のみです								
外科	午前	平松 聡	平松 聡	平松 聡	休 診	平松 聡	平松 聡	
ダイヤライシス アクセス 専門外来	午前/午後 ☎要予約	櫻間 教文	櫻間 教文	櫻間 教文		櫻間 教文	—	
★初診の方は月・水・金のみです ★時間外でも可能な限り対応いたしますので電話でお問い合わせください								
泌尿器科	午後 ☎要予約	—	—	—	休 診	岡山大学医師 13:30~16:00	—	
皮膚科	午後	—	太田 知子	太田 知子	休 診	—	—	
眼科	午後	交代医師 第4日曜日13:30~16:00	—	—	休 診	—	—	
脳神経内科	午後 ☎要予約	—	—	—	休 診	—	森 仁	

受付時間

午前 8:30~12:00

午後 13:30~16:30

再診の方は、再来受付機にて8:00より受け付けています

休診日 木曜・日曜・祝日

急病の場合は、あらかじめお問い合わせください

交通のご案内

「重井附属病院」行き終点下車

- 天満屋バスセンターから ▶ 約40分
- 岡山駅東口バスターミナルから ▶ 約30分

- JR庭瀬駅から ▶ 約10分
- JR妹尾駅から ▶ 約10分

140台 当院ご利用の方は、無料



社会医療法人 創和会
重井医学研究所附属病院
〒701-0202 岡山県岡山市南区山田 2117

代表
TEL 086-282-5311
FAX 086-282-5345

入退院支援センター(直通)
TEL 086-282-5360
FAX 086-282-4447

